

連携医院のご紹介

今回は、患者さんのより良い診療のために“関係者のチームワーク”を大切にしておられます島本外科内科医院 島本ミヤ子副院長先生です。



島本外科内科医院外観

島本外科内科医院

〒734-0003
 広島市南区宇品東7-2-26
 電話 / 082-254-6300
 院長 / 島本 学
 副院長 / 島本 ミヤ子
 診療科目 / 内科、外科、小児科、整形外科



○開業から今までのことについて教えてください。

昭和48年に外科内科として開業し、8年前までは19床の有床診療所として入院相談や救急患者の受け入れを積極的に行っていました。現在は無床診療所として、外来や地域の訪問診療に力を入れております。

○診療で大切にしていることは何ですか。

患者さんの状態を迅速に評価し、適切な医療機関につなぐことです。また、患者さんを地域で支えることに力を入れておりますので、自院のスタッフだけでなく、地域の関係者も含めたチームワークを大切にしております。

○開業医のやりがいについて教えてください。

訪問診療に力を入れるようになって、患者さんの生活をより知ること

ができるようになりました。診療だけでなく、生活上のアドバイスなどで患者さんの生活そのものを支えるお手伝いやりがいを感じます。

○地域医療連携ネットワーク(KBネット)についてひと言をお願いします。

紹介させていただいた後の経過がすべて見られることで、患者さんが当院に戻ってこられる際の準備や心構えができるから良いですね。また、県病院への通院状況や処方の内容が見られるので、お薬の重複などに気を付けることができますので、大変助かっています。

【取材後記】

県病院も島本先生のチームの一員として、今後ますますの連携をどうぞよろしくお願いいたします。

もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。
 県立広島病院 で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)

理念：県民の皆様にあいさされ信頼される病院をめざします



花粉症を乗り切るには

つら〜い

<http://forest17.com/> 無料写真素材フリー「花ざかりの森」

花粉症はアレルギー性鼻炎の一つです。外から入ってきた花粉やダニ、ハウスダストなどの異物が体内に入るのを防御するために起こるもので、鼻水や鼻づまり、くしゃみ、目のかゆみとなって現れる疾患のことを言います。花粉症の原因植物の主なものはスギ、ヒノキなどがあります。花粉症の症状が出る前から治療を始めると、症状の発症を遅らせ、飛散シーズン中の症状をやわらげることができます。

花粉症の症状は風邪に似ていますので、風邪だと思い込んで悪化させてしまうこともあります。おかしいと思ったら早めに医師に診てもらい、症状の軽いうちに治療しましょう。

花粉症と風邪の違い

とてもかゆく、涙が出ることもある	目のかゆみ	ほとんどない
さらさらしている	鼻水	さらさらでも数日で黄色くネバネバしてくる
両方の鼻がつまり鼻で息ができない	鼻づまり	比較的症状は軽い
立て続けに何回も出る	くしゃみ	立て続けに出ない

花粉症 (おかしなと思ったら診てもらいましょう) 風邪

生活上の注意点

- 外出する時はマスクやメガネ、スカーフを着用しましょう。
- 帰宅時は玄関に入る前に衣類に付着した花粉を払い落としましょう。
- 手洗いやうがいを行いましょう。
- 外に干した洗濯物や布団は付着した花粉を払い落してから取り込みましょう。
- 掃除はこまめに行い、濡れ雑巾やモップによる清掃を行いましょう。

県立広島病院からのお知らせ

広島南道路が開通しました!

平成26年3月23日(日)に広島南道路が開通し、西部方面からのアクセスが便利になりました。

出島ICから当院まで約3分でお越しいただけます。

開通にともない、西部方面から救急搬送する際の所要時間短縮が見込まれ、当院への円滑な救急搬送が可能となりました。



紹介状持参のお願い

初診時、他の医療機関からの紹介状をお持ちでない場合、保険診療費の他2,690円のお支払いが必要となります。初診の際には、紹介状をお持ち下さい。

※当院では、予約診療を優先して診察しています。予約診療以外で受診されると待ち時間が長くなる場合がありますので、ご了承下さい。

KBネット

現在の参加医療機関は

153 機関です。
(3月14日現在)

問合せ先 地域連携センター
 電話(082)252-6228(直通)

脳心臓血管センター

開設しました!

このたび、「トータル・バスキュラーケア」をキーワードに、脳・心臓・血管の総合的な医療を行う『脳心臓血管センター』を開設しました。



ある病気の検査中や健康診断などで、偶然にも高血圧や高血糖であるとか、コレステロールが高いなどと指摘されたことはありませんか。また禁煙がなかなか出来ないとか、体重が減らないという悩みもありませんか。

これらはすべて「動脈硬化」を進行させる危険因子です。知らない間に血管の動脈硬化が進む結果、脳血管から心臓の血管、胸部部の血管、四肢血管の病気が生まれます。脳卒中、狭心症・心筋梗塞や不整脈、大動脈解離や大動脈瘤、下肢動脈の閉塞などの症状が出現し、突然身の危険が迫ってくるのです。そして、高齢化と共にこれらが複合して発症するようになってきました。

こうした時代に対応するため、県立広島病院では脳・心臓・血管に関係する診療科が連携して、危険因子の多い方に対し、全人的に一貫した診療をめざす『脳心臓血管センター』を開設しました。受診希望の方は、まずかかりつけ医にご相談ください。専門的アドバイスも受けながら自分の健康管理をおこない、元気な日々を過ごしましょう。

トータルバスキュラーケア
Total Vascular Care

外科医の独り言 no.31

— 完全内臓逆位 —

人間は機械ではないので当然それぞれ性格や体格が違います。それと同じように体の中の血管、神経の走行、位置も少しずつ違います。お腹の中の血管も大まかに言えば約8割の人はほぼ同じような場所を同じように枝分かれして走っていますが、全く同じというわけではありません。30年間外科医をやっているとそれぞれ血管の走り方の違いに無数の組み合わせがあることに気づきます。最近ではCTやMRIの性能が格段に上がり、手術前にお腹の中の血管を立体的に再現できるようになり、あらかじめ心の準備ができていますので手術中にビックリするような血管走行の異変に出くわすこともほとんどなくなりました。そういう意味ではCTやMRIなどの画像診断の進歩に患者さんのみならず外科医も計り知れない恩恵を受けているわけです。

しかし、あらかじめわかっても戸惑うのが完全内臓逆位の患者さんの手術です。完全内臓逆位とは、胸部・腹部の内臓の配置が鏡に映したようにすべて左右反対になっている状態です。たとえば心臓は通常左にあります、それが右にあります。ただし、臓器の機能自体は全く正常で問題はありません。そのため検診で偶然に見つかることがほとんどです。1万人に1人の割合であるそうですから、1万人の手術をすれば1人当たるということなのです。

私が中高生の時に愛読していたブラックジャックにも出てきました。確か腹痛の男児の緊急手術でお腹を開けてみて初めて内臓逆位と判明し、結果的には盲腸だったのですが、さすがのブラックジャックも手術がやりにくかったようです。助手のピノコに鏡を持たせて、その鏡を見ながら手術をして上手くいったというストーリーだったと思います。また昔、「太陽にほえろ」という人気刑事ドラマがありましたが、その中で刑事が左胸を撃たれたけど、内臓逆位だったために心臓には当たらず一

命をとりとめたということがありました。最近では医龍というドラマで完全内臓逆位の患者さんにパチスタ手術を挑戦したという話があったそうです。息子はこのドラマの大ファンで良く見ているそうですが、残念ながら私は一度も見たことがありません。

さて、30年間外科医をやってきた私は2度ほど完全内臓逆位の患者さんの手術をしたことがあります。最初はもう20年くらい前に胆石の患者さんに腹腔鏡で胆嚢摘出術を行いました。その時の状況を今はあまり覚えていないので、それほど苦勞ではなかったのでしょうか。しかし、昨年末に肝臓の手術をしたときには大変苦勞しました。内臓逆位でなくても少し厄介なところに腫瘍があり、色々と思慮を重ねて手術に臨みました。まず、お腹を切る創も真反対なのです。肝臓のほとんどはお腹の右上にあるので創はいつもみぞおちから逆L字型に切りますが、この患者さんの場合は左側にあるのでL字型に切らなければなりません。お腹を開けるとその光景はまさに真反対なのです。いつもは右から左に走る血管は左から右に走り、肝臓の中の血管、胆管もすべて真反対なのです。実は、手術前にブラックジャックがやったように誰かに鏡を持たせてそれを見ながら手術を、と少しだけ思いましたが、あまりにも非現実的なのでやめました。結局、一つ一つの動作の度に「いつもと反対だけ大丈夫？」と自分に言い聞かせて確認しながら手術を無事終えることができました。もちろんいつもよりは少し時間がかかったと思いますが、手術が終わった直後から強烈な頭痛と吐き気に襲われました。いつもと違うストレスに脳の神経回路がショートしたのかもしれない。



院長補佐(消化器・乳腺・移植外科主任部長) 板本敏行(いたもと としゆき)

病棟編

看護部だより

西8病棟

西8病棟は、主に糖尿病内分泌内科・総合診療科・脳神経内科・皮膚科の病棟です。糖尿病の人、高齢の人、認知症のある人、麻痺や神経障害のある人、皮膚科の手術や化学療法を受ける人など様々な患者さんが入院されます。糖尿病の教育入院においては、糖尿病療養指導士を中心に教育プログラムを組み、医師・薬剤師・栄養士・検査技師・歯科衛生士の協力を得て、「糖尿病教室」を開催しています。また、フットケア外来、透析予防外来も担当しています。患者さんが安全で安楽な入院生活が送れるよう、医師・看護師・理学療法士などとカンファレンスを行い、患者さんひとりひとりに合った看護が提供できるようがんばっています。昨年1名が認知症看護認定看護師となりました。これから、より認知症に対する理解を深め、看護を実践していきたいと思っています。また、状況により退院調整を必要とする患者さんが多く、地域連携センターと連携をとりながら、退院後の生活を考えたいです。



患者さんひとりひとりにあった看護を提供します